様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：１７２０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2016
課題番号：２６７７０２１６

研究課題名（和文）国学者長野義言の基礎的研究

研究課題名（英文）On NAGANO Yoshitoki,a nativist

研究代表者
三ツ松　誠（MITSUMATSU, Makoto）

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・講師

研究者番号：１０７１２５６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、国学者としての長野義言の資料の残存状況を調査し、今後の研究の可能性を開くとともに、井伊直弼と義言の国学思想とその政治上の立場との関わりを問題にした。既存の研究では、本居宣長流の歌詠みだった義言は、説教くさい儒教や道徳一般を嫌う故に、安政の大獄に際して容赦なく敵対者を弾圧することができたのだと説かれてきた。だがむしろ、本居宣長説を独自に拡張した神学に伴う善悪二元論的発想が、敵対者への仮借なき姿勢につながったのではないだろうか。

研究成果の概要（英文）：On this project,I have researched where have documents of NAGANO Yoshitoki been,and political thoughts and acts of Yoshitoki and II Naosuke as nativists.My conclusion is that Yoshitoki wasn’t amoral,as seen before, but pseudo-manichaeist who assumed Enemies are Evil to be eliminated.

研究分野：日本思想史

キーワード：日本史　近世史　国学史　長野義言　井伊直弼

１．研究開始当初の背景

⑴研究代表者はそれまで、明治維新において国学者が果たした役割を明らかにするため、国学史を代表する本居・平田の両派について、一次史料に基いた研究を進めてきた。

その成果を示せば、まず、霊魂に関する関心が深い平田派は、独自のコスモロジカルでスピリチュアルな神道神学に勇気づけられる形で尊王攘夷運動に身を投じ、明治政府の成立後は、そうした信念の故に合理的な政府首脳部によって疎んじられ、一斉逮捕・失脚の憂き目に遭った。この図式は、既存の思想史研究の持つ、平田派的な霊魂論と幕末の政治運動とを別物として位置付けようとする傾向に対して、批判を企図したものである。他方、文献考証的な本居派も、幕末にはナショナリスティックな性格を強め、明治政府のイデオロギー関係部局に貢献することになる点を明らかにした。文学の世界に限られた本居派国学の評価に対する、異議申し立てとしての作業である。

このように「スピリチュアルな動きによって幕末維新期の尊王攘夷運動に影響を与えた平田派」対「文献考証的に明治新政府に貢献した本居派」という図式によって、日本思想史の祖である村岡典嗣以来の本居派・平田派像の更新を目指したのである。

だがこのように自分なりの見通しを付けつつある中で、調査・収集した史料の山の中から、この枠組みに当てはまらない重要人物が浮上してきた。その国学者は、霊魂を重視した独自の神学を展開しつつ、文献考証をも重んじ、尊王攘夷運動に反対する側から政治活動に邁進した。他でもない、それが長野義言である。

⑵長野義言は遊歴の国学者として、後の大老井伊直弼と深い交流を結び、後に直弼の側近として活躍、京都で政治工作に従事して、対立する一橋派の動きを阻止し、さらには安政の大獄をもたらすことになる。言うまでもなく、幕末政治史に最も影響を与えた国学者である。

とはいえ、国学者として彼の残したものに、これまでどれほど目が向けられてきたであろうか。数多くの著作を残した学者である彼の思想を論じた者は、驚くほど少ない。振り返って考えてみるに、戦前に広がりを見せた、王政復古史観に寄り掛かる形で国学者の事跡を称揚しようとする類の国学者研究の流れにおいては、尊王の志士の仇敵とも呼ぶべき義言の業績・思想を、検証あるいは顕彰しようとする動きが起こらなかったのも、不思議なことではない。戦後に進展を見た彦根藩研究も、ミスティックな国学的修辞に満ちた彼――と知的交流を行った井伊直弼――の言説を、これまで正面から取り扱ってこなかったと評すべきであろう。

数少ない先行研究のうち、まず挙げるべきは渡辺浩の「「道」と「雅び」」である。渡辺は、義言を、儒者の説く「理」のような超越的な価値基準の存在を拒絶し、現在の政治をそのまま肯定したと見る。そしてその結果、政権批判者が彼らなりに公的な動機のために動いていることを理解せず、彼らは全て「悪謀方」とその手先なのだと見做して、安政の大獄を引き起こすこととなったのだという。しかし、彼らの大弾圧が本当に超越的な価値基準による基礎付けを欠いていたとは見做し難い。研究代表者がこれまでに見つけた、渡辺が利用できなかった史料に従えば、長野義言は善悪二元論的な宇宙観・霊魂観に関する壮大な思弁を展開して、独自の神道的国学を打ち立てていた。義言が「悪」を峻拒する姿勢は、渡辺の説く超越的価値基準の不在ではなく、こうしたコスモロジカルな善悪二元論的価値基準の存在から説明されなければならなかったのだ。

次いで山口宗之の『井伊直弼――はたして剛毅果断の人か？――』を挙げたい。安政の大獄の犠牲者たる橋本左内の研究者として出発した山口は、副題の通り、開国の決断者としての剛毅果断な直弼像を批判し、長野義言から大きく影響を受け、義言を慕うこと甚だしい「女々しい」者としての直弼像を打ち出した。しかし、剛毅果断かどうかという人物評価に留まることなく、義言の思想体系と直弼の行動へのその影響をより詳しく分析する必要がある。

野口武彦の「地下に哭く骨」『幕末気分』は、管見の限り、義言の著作を最も多く参照して直弼と義言の政治的行動を扱った評論であり、彼の神学思想をも踏まえた議論として、特筆すべきものである。だがそれでも参照される義言の議論は数点であり、一般雑誌に掲載されたこともあってか十分な論証を行わない部分があり、彼の思想を国学者にとってありきたりのものとして片付けてしまう箇所も目に付く。徹底した史料調査による綿密な作業で、評価を更新していくべきであろう。

２．研究の目的

国学者長野義言は、井伊直弼の側近として働き、安政の大獄の推進者として著名であり、政治史や文学作品によって様々に描かれてきた。しかしながら国学者としての彼の著作のほとんどは、刊行はおろか、紹介すらされないままに残されている。本居・平田の両派の国学から影響を受けつつも、そのいずれに対しても異質にして、井伊直弼に大きな影響を与えたことが実証できる彼の思想体系を明らかにする必要がある。そこで、全国に眠る義言とその門人の著作・関連史料の残存状況を明らかにして、国学に関わる諸学問分野における義言研究の展開可能性を提示するとともに、義言から直弼への影響、また直弼から義言への影響を展望することを目指す。

３．研究の方法

基礎的研究として、まず写本でしか伝わら

ないものも多い国学者としての長野義言の著作の全容を、各地の史料所蔵機関での調査を通じて把握し、研究に必要な基礎史料・基礎情報を蓄積していく。そして、義言の門人に関しても同様の作業を進める。これによって、義言思想とその広がりを明らかにし、義言国学研究の意義と作業的展開の道筋を広く示していく。

応用的分析として、まず、井伊直弼が義言の著作を受容したことが確認できる事例を、写本や書簡・メモといった諸史料に即して明らかにして、直弼の国学的な思想形成の過程に迫っていく。それから井伊家史料中に見られる義言や直弼の特徴的なレトリックや政治上の姿勢を分析することで、将軍継嗣問題・安政の大獄に関する政局史と彼らの国学思想とを関連付けていく。

４．研究成果

⑴長野義言とその弟子に関する著作・史料がどこに残されているかについて。彦根城博物館の井伊家伝来古文書（井伊直弼との関係で残されたもの）、一橋大学附属図書館の青木文庫（門人青木千枝の旧蔵書）などといった資料群が、まとまったコレクションとして挙げられる。研究に当たっては、これらの資料群が基礎資料になることが、確認された。

この他、関係を持った本居家に関する資料群（本居大平系統の資料が残る、東京大学国文学研究室所蔵の本居文庫、本居春庭系の資料が残る本居宣長記念館）をはじめ、義言の著作・史料が含まれる資料群も幾らか存在することが確認できた。門人に関する資料については、さらなる発見を期待したいところである。

上述の資料群からは、紀州藩国学所で活躍した本居内遠や、小中村清矩といった本居派国学者との歌会や著作のやり取りといった繋がりも確認されたが、これまで義言は本居系の歌学派国学者と見做されながら、彼らとの具体的な関係が指摘されてこなかったという事情もあり、今後、かかる点からの研究進展も見込めよう。

⑵井伊直弼がいかに長野義言の思想から影響を受けていたかについて。長野義言発信の書簡類を調査した結果、井伊直弼は世子になるにあたって、義言を登用することを約束していたこと、そして仏教でもなく儒教でもなく、義言の国学こそが政治実践上の指針となるべきものだと考え、義言にその理を述作してほしいと依頼していたことが、詳しく分かった。この書簡に従えば、政治家井伊直弼の主体形成において、義言が与えた影響が比類なき大きさを持っていたと言えるだろう。

そして、かかる直弼の依頼に基づき義言が著したのが、その名ばかり有名な「古学答問録」や「沢の根芹」になる。

それらに拠れば、義言は本居宣長から受け継いだ「みよさし」論を唱え、天皇―将軍―諸侯―士という階梯的秩序を説き、しかも上からの一方的な命令系統の貫徹を重視している。そしてかかる先例と血筋を重んじる皇国の政治文化は、私意によって改めるべきものではない。また義言は、天(アメ)・地(ツチ)・泉(ヨミ)の三世界と顕幽の分界、という本居宣長や平田篤胤のコスモロジカルな議論も引き継いだ。ただし、天・地・泉をそのまま日・地球・月と見做すことはなく、義言にとっての日と月は、何れも天の構成要素である。黄泉国は月とは別に、大地の下方の穢れの世界として設定される。そして地上には顕界・幽界の他に魔界と言う独自の領域が設定され、黄泉国からやってくる禍津日神や悪魔がここに住むと主張される。義言は宣長同様、穢れの神たる禍津日神が諸悪事の根源であると見做し、しかも宣長とは異なり、正しい心と行いで禍津日神がもたらす凶事は回避できると説く。彼の毅然たる悪と穢れへの拒絶の意志は、宣長の道徳的消極性とは異質である。

このように、直弼が感銘を受けた義言国学は、①上からの一方的な命令の貫徹を重んじた大政委任論、②血脈や先例の重視・中国流に対する批判、③宇宙論によって基礎付けられた、悪神の実在を信じ、これに積極的に対抗しようとする姿勢、を特徴とするものであった。

ではこうした思考法と彼らの政治上の姿勢がどう対応していたか。列挙すれば次の通り。

①政治課題に関して「公論」を唱える外様大名らの容喙を嫌い、天皇の許諾を得ることによる上からの意思統一を図っていた。

②儒教思想を受容して体制改革を目指し将軍継嗣問題でも血筋の近さよりも英明さ・才覚を訴えた水戸グループと、鋭く対立した。

③自らを善方、反対党を「悪」の手先と断ずる善悪二元論的思考法を採り、敵に対する容赦なき排除策を促した。

既存の研究では、本居宣長流の歌詠みだった義言は、説教くさい儒教や道徳一般を嫌うが故に、敵対者を容赦なく弾圧することができたのだと説かれてきた。だがむしろ、宣長説を独自に拡張した神学に伴う善悪二元論的発想が、敵対者への仮借なき姿勢につながったのではないだろうか。これが将軍継嗣問題・安政の大獄に関する政局史をめぐって、本研究が提示した新たな視点である。

総体としてこうした形にまとめられる本研究の成果は、下に掲げた諸学会で報告し、ブラッシュアップして論文集や学会誌で公刊した。幸いにも史料的新規性や国内最大規模の歴史系学会で発表する機会を得られたこともあって、学界に一石を投じることについては、賛否は別にして、ある程度の成功を見たものと考える。

まだまだ明らかにすべき論点・論証を精緻化しなければならない箇所は多いが、「基礎的研究」としての本研究課題は、ここまでで

一区切りついたものとしたい。

〈引用文献〉
渡辺浩、「道」と「雅び」(四)完、国家学会雑誌、88(5・6)、1975、pp.295-366

山口宗之、ぺりかん社、井伊直弼、1994、233

野口武彦、講談社、幕末気分、2002、287

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①三ツ松誠、「開国」と国学的世界観、歴史学研究、査読無、950、2016、pp.82-91

〔学会発表〕（計５件）
①三ツ松誠、「開国」と国学的世界観、歴史学研究会大会近世史部会、明治大学駿河台キャンパス（東京都・千代田区）、2016 年 5 月 29 日

②三ツ松誠、「開国」と国学的世界観、歴史学研究会日本近世史部会大会準備報告会、東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）、2016 年 5 月 8 日

③三ツ松誠、「開国」と国学的世界観、歴史学研究会日本近世史部会大会準備報告会、東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）、2016 年 3 月 20 日

④三ツ松誠、長野義言の宇宙観、日本思想史学会大会、早稲田大学戸山キャンパス（東京都新宿区）、2015 年 10 月 18 日

⑤三ツ松誠、禍津日神論争再考、日本宗教学会第 73 回学術大会、同志社大学今出川キャンパス（京都市上京区）、2014 年 9 月 13 日

〔図書〕（計１件）
塩出浩之、朴薫、上田純子、三ツ松誠、福岡万里子、池田勇太、平山昇、三牧聖子、坂田美奈子、東京大学出版会、公論と交際の東アジア近代、2016、308（pp.79-104）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
三ツ松　誠（MITSUMATSU,Makoto）
佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・講師
研究者番号：１０７１２５６５

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）